

SDGsを通じた学術を進めるために：提言 170901岡山

- SDGsに取り組む際に、文化・歴史と学術の深みを活かす。
 - 岡山には、「文化」を大切にしている土地柄がある。
- 多様なセクターからの参加があるような、対話の場を増やす。
 - その対象は
 - 1) 普遍的・多様な価値であるSDGs
 - 2) 自らの地域の特性を学術的に収集・記述すること（Well-beingの在り方など）
 - 3) 良いとされている技術を、本当に良いか、多面的に見直していくこと
 - 文理学際的な行動を進める研究費・場など枠組みを用意し進めることを提言する。
 - 参加した人たちがInspireされ、各分野（本業）でそれぞれ活躍するという場とする。
 - 既存の価値に対してWin-winになる内容設定。
 - チャタムハウスルールの導入。自由な発言の担保。
 - モチベーションの程度によらないで、参加を可能とする仕組みを検討する。
- SDGsにかかわるような仕事・学業を評価の対象にする。
 - 研究教育以外のセクターとの協働も評価する
 - SDGsに最適化された評価を実現する、入試を実施目標年度を定めて実現する。
 - 各組織がそれぞれ、今までにないものを作り出していると思う人材を、独自に表彰する。
- 教育において、SDGsを軸とした新たな動きを起こす。
 - 通常カリキュラムに、SDGsの概念を埋め込むためのマトリックスを作りこむ。
 - 社会人教育＝より進化してほしい教員・企業人を教育する場としての大学。
 - 開発と環境保全のバランスの歴史を学ぶ機会：過去の経験を将来に伝える取り組みを、組織として、行う。
 - SDGsの軸を念頭に、学び方を、学生は学び、教員は教える。
 - 今課題に取り組んでいる人々とともに、学生・プレイヤーに対処法を共有する。
 - 専門家から一般（とくに親）向けの知識提供を促進する。
 - ただし、専門家（科学者）の役割の「持続可能性」は配慮する。